

授業科目(ナンバリング)	介護福祉論 (DA109)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本講義では、高齢者の生活実態を理解し、高齢者支援の方法と実際、組織間・専門職間の連携や協働の実際について学び理解していく。健康な高齢者・支援が必要な高齢者・介護が必要な高齢者・終末期における高齢者等、高齢者への支援は幅広い。また、支援の対象も高齢者本人だけとは限らない。支援が提供される場（機関）も多様である。</p> <p>このことから、高齢者支援の基本理念や理解、支援方法を確認し、知識の修得を目指す。そして、福祉の基礎的な知識と技術を身につけることができるようになることも実際に体験し、議論したい。また、レポートをまとめる力も向上させたい。ねらいとしたい。そして、本学のディプロマポリシーでも示されている（介護福祉士としての）専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							②⑤⑦⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援のための具体的方法を説明できる。 ・ 社会福祉士が介護を理解することの必要性を説明できる。 ・ 認知症の状況や状態に基づいた支援方法を説明できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時試験 ・ 課題レポート ・ 知識確認テスト 	30% 15% 5%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマネジメントの流れを類別できる。 ・ 介護過程における情報を優先順位をつけながら類別できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識確認テスト ・ 課題レポート 	10% 10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの高齢者福祉課題の検討を同職種・多職種と協調できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時試験 	10%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織間・専門職間連携や協働の実際を理解することができる。 ・ 高齢者に起こりうる諸問題を理解することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題レポート 	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時試験（40%）：第15回目に実施する。 ・ 知識確認テスト（15%）：開講期間中に3回実施。テスト後は模範解答集をポートフォリオ掲載し自己採点する。 ・ 課題レポート（45%）：マナバフォリオによるものを中心に実施する。評価後は授業等で紹介しながらフィードバックを行う。テーマや体裁、文字数等を指示する。文字数不足や誤字・脱字、体裁が異なる場合などは減点の対象とする。 							
授 業 の 概 要							
<p>本科目は、社会福祉を学ぶものとして、あるいは、社会福祉分野で働くものとして、関連領域としての介護（支援）の理解を深めていく。また、介護が必要な人の理解や支援（ケアマネジメントや介護予防、介護の技法）の方法を学ぶ（ディスカッションも行う）。さらに、支援に必要な福祉用具についても随時紹介し、実物に触れたり、自分自身の体の動きを制限するという条件下で体験時間を設け（嚥下動作の確認や着脱動作の確認等々）、具体的な理解につなげる。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：新・社会福祉士養成講座13『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規 山縣文治他『社会福祉用語辞典』ミネルヴァ書房</p> <p>参考書：適時紹介する（認知症に関する書籍や終末期に関する書籍等々）</p> <p>指定図書：新・社会福祉士養成講座13『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>利用者へ適切なサービスを提供するためには、授業で学ぶことに加え多くの知識を得ることが大切です。高齢者をめぐる諸問題について、新聞などから情報収集をして授業に臨まれることを期待します。また、授業に臨むにあたって、他者に迷惑がかかること（遅刻・欠席・途中退席・携帯端末操作・居眠り・私語等）はしないでください。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 日本の高齢化	高齢者を理解するための方法について学ぶ。個別援助技術・集団援助技術・地域援助技術について学ぶ。	予：テキスト冒頭「はじめに」確認 復：配付資料再読
2	高齢による変化と影響	高齢者の身体的特性と疾病や心理、老化による変化とパーソナリティについて学ぶ。恒例に伴う日常生活に及ぼす影響と生活ニーズを理解する。	予：高齢者のところとからイメージ 復：配付資料再読
3	高齢者支援の方法と実際	高齢者理解の方法を学ぶ。ケアマネジメントと高齢者支援における留意点について学ぶ。介護保険法における連携と実際を学ぶ。	予：①介護保険制度の制定・施行年②ケアマネジメント意味調べ 復：配布資料再読
4	高齢者を支援する専門職の役割と実際	専門職の役割と実際、協働について学ぶ。チームアプローチの展開・実際・促進の要件について理解する。専門職の倫理について理解する（専門職と倫理、社会福祉士の倫理、介護支援専門員の倫理）。	予：社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士調べ 復：チームアプローチの振り返り
5	高齢者に対する諸施策 介護の概念や対象①	介護と住環境、バリアフリー法などについて学ぶ。専門性の理解として介護実践構造を学び、社会福祉士が介護の理解を必要とする理由についても学ぶ。また、介護の専門性を支える理念と価値を学ぶ。	予：高齢者住まい法調べ 復：介護の専門性に係る理念と価値を振り返る
6	介護の概念や対象②	利用者の生活の理解と家族支援について学ぶ。介護活動の場を理解する。	予：高齢者の生活イメージ 復：配付資料再読
7	介護過程①	介護過程の概要や介護予防について学ぶ。介護過程と社会福祉士の関係や介護計画について理解する。また、介護予防ケアマネジメントについても理解する。	予：介護予防のイメージ 復：配付資料再読
8	介護過程②	アセスメントの視点と対象を理解する。サービスの決定は生活の決定であることを基盤にし、介護過程の基となる事実と情報、展開の実際についても理解する。	予：アセスメント意味調べ 復：配付資料再読
9	介護と住環境 介護の技法①	自立した日常生活支援を理解する。高齢者が住みやすい住居や整備を考える。また、身支度を学び、メリハリやリズム、刺激を理解する。	予：メリハリのある生活イメージ 復習：配付資料再読
10	介護の技法②	負担なく移動するためのボディメカニクスを理解し、移動方法や介助、福祉用具使用の介助を理解する。睡眠とは何か、睡眠のしくみや入眠援助を学ぶ。	予：ボディメカニクス意味調べ 復：配付資料の再読
11	介護の技法③	食支援の考え方、支援に必要な視点を理解する。食事時の基本姿勢や摂食・嚥下の過程も理解する。口腔ケアの考え方、ケアに必要な視点を理解する。排泄動作（アセスメント）を理解し、排泄介護の実際について学ぶ（トイレ介助・失禁対応・おむつ）。	予：食事動作の範囲イメージ 復：配付資料の再読
12	介護の技法④ 認知症ケア①	入浴の意義と介護方法を学ぶ。安全な入浴への配慮を学ぶ。清潔動作として清拭や部分浴を理解する。認知症を理解する（中核症状・周辺症状等々）。	予：清潔動作イメージ 復：配付資料の再読
13	認知症ケア②	認知症ケアの基本的な考え方を学ぶ。認知症高齢者と家族を支えることなど、認知症ケアの実際も学ぶ。	予：認知症現状調べ 復：配付資料再読
14	終末期ケア 近未来の高齢者福祉課題とまとめ	高齢者の終末期ケア、死にゆく人へのケア概念の変遷を学ぶ。また、高齢者の終末期ケアのあり方を考える。高齢者への支援システム（社会活動支援、就労・学習支援、予防、投資的社会）について理解する。介護福祉論全般を振り返る。	予：終末期現状調べ、高齢者就労調べ 復：配付資料再読
15	随時試験		